

教育実習を終えて振り返ってみると、実習の 3 週間は私にとって大変充実したものでした。

指導教諭の先生は、いつも明るく笑顔で、本当に親身になって私の実習を支えて下さり、二人三脚で授業を一緒に作り上げていくようなそんな毎日でした。そして、授業を作り上げていく中で、まずは自分の知識不足を痛感することになります。生徒に「教える」ためには様々な知識が必要で、1 教えるためには 10 を知らなければならないということを、身をもって味わうことが出来、日々の教材研究の大切さが分かりました。また、教材研究を重ね、話したいことはたくさん出てくる中、50 分という短い時間で、どこを重点的に教えて、時間短縮の為にどのように省くのか、という取捨選択が大変難しく、先生にアドバイスを頂きながら、苦勞して授業案を作り上げました。

授業を実際に行い始めてからは、毎日が反省と改善の繰り返しでした。先生に頂いたアドバイスを次の授業で反映できるよう、同じ授業でも少しずつ変化させていき、いかに分かりやすく説明し、生徒たちに様々なことを考えさせるかということを目指して進めていきました。自分に見つかった大きな課題としては、まとめを簡潔に一回で言い切ることです。私は生徒に理解してもらいたいという一心で、言葉を変えながら何度も同じことを繰り返し言って時間を取っていました。しかし、先生に簡潔に一回で言い切っても案外生徒は理解していて、繰り返すことで逆に授業に飽きてしまうかもしれない、とご指摘を頂き、確かにその通りだと感じました。自分の言動を振り返ってみると、日ごろから同じ話を繰り返してしまっているということに気が付き、この課題は普段の生活から改善していこう、と思っています。

研究授業では、古典で枕草子のまとめをグループワークを用いて行い、堅苦しいイメージの古典から離れることで、生徒が積極的に意見を出し合い、とてもよい雰囲気で行うことが出来ました。先生方から細かい指摘はあったものの、とてもよい授業だった、と高評価を頂くことが出来、また、授業終わりにクラスの生徒たちが「楽しくてわかりやすい授業だった」とみんなで拍手をしてくれたので、本当に嬉しかったです。

実習中ははっきりとした答えがない国語という教科を教える大変さに挫けそうになったこともありました。しかし、授業の中で生徒のそれぞれ異なる、自分の言葉で表現した意見にふれるときには、毎回新たな意見に納得させられたり、驚かされたりと、生徒と一緒に吸収しながら自分の思考を深め、教師自身も成長していく国語ならではの楽しさを味わうことが出来、充実した教壇実習を行うことが出来ました。

HR 活動では、担当クラスで初日に「3 週間後、私がこのクラスの担当でよかったと言ってもらえるよう頑張る」と宣言して、積極的に生徒に話しかけたり、生徒と会話したことや日誌に書かれたことを自分でノートにまとめたりしました。その甲斐もあり、すぐに生徒たちは懐いてくれて、大運動会と詩のボクシングという大きな行事では、応援の準備を放課後取り組んだり、一緒に入場して応援の円陣を組んだり、とクラスの一員として受け入れてくれました。最後の HR では「先生がこのクラスでよかった、まだまだここにいてほしい、また遊びに来てね」という言葉を貰うことが出来、実習をこのような形で終えることが出来てよかった、と心から思っています。

この教育実習は、担当教諭や生徒、他の実習生に恵まれ、本当に楽しく充実した3週間を送ることが出来ました。この実習で得た様々な経験や思いを大切にして、今後の自分に活かしながら精一杯頑張っていきたいと思います。